

畜産みやぎ

発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号
法 宮城県畜産協会
電話 022-298-8473

編集発行人
木村春雄

印刷所
(株)東北プリント



ねずみ乗り大黒

写真提供 つゝみ人形製造元 芳賀 強氏

もくじ

CONTENTS

会長年頭挨拶 ……………2	配合飼料価格の高騰等に関する経営相談窓口を開設 ……7
知事年頭挨拶 ……………3	繁殖和牛子牛・胎児の事故発生状況と対応策について ……8-9
畜産加工調理体験教室を開催しました ……………4	家畜診療研修所の新築について ……………10
優秀農林水産業者の表彰について ……………4	<実践大学校生の抱負>「私の将来について」 ……11
第7回全日本ブラックアンドホワイトショウ開催される ……4	<衛生便り> 高病原性鳥インフルエンザ対策の再度確認を ……11
<畜試便り> 新ランドレース種系統造成について ……………5	賀春 ……………12
平成19年度肉用牛増頭意見交換会 ……………6-7	食肉と健康を考えるシンポジウム2008 ……………12

みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>
Eメール info@mygchiku.or.jp



古紙パルプ配合率70%の再生紙と、植物性大豆油インキを使用しています。

〈会長年頭挨拶〉



社団法人 宮城県畜産協会長
木村 春雄

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、米政策改革、品目横断的経営安定対策が始まりましたが、平成19年産米の米価下落や、原油価格等に起因する配合飼料価格の高騰により、生産農家の収入は減少しました。また、生産コストの上昇は農業のみならず、製造業全般が大きな影響を受けた一年でもありました。こうした中、今年は子年とのこともあり、小回りの効いた行動により当面の課題に取り組んでまいりたいと考えています。

まず、「担い手」の育成確保につきましては、品目横断的政策の導入に伴い、地域の実態に即した基準で、生産者、関係機関、関係団体皆様方のご協力を頂き一体となって取り組んでいきたいと考えております。更に、つくりあげた担い手への個別事業対応と経営指導の強化を図ってまいります。一方、担い手・集落営農要件の見直しを踏まえ、小規模兼業農家等の多様な農業者への支援にも引き続き取り組んでまいります。

また、WTO農業交渉、日豪EPAについては、わが国の重要品目に対して十分な配慮がなされるように訴えるとともに、交渉中断も含めた対応が必要であり、農業のみならず、関連産業や地域経済に大きな影響を及ぼすものであることも訴えてまいります。

さて、本県の畜産は、農業産出額の3割を占める

までに成長し、畜産主産県としての位置を確保しておりますが、米政策の転換及び米価の下落により、畜産はますます重要な品目となっています。また、畜産業は、畜産物の生産活動を体験や交流を通し、豊かな人間性の育成と環境保全を担う重要な役割も果たしております。一方、農業従事者の高齢化や担い手不足による生産基盤問題、低コスト化生産への対応、環境への負荷軽減や家畜衛生対策等々の強化も緊急な課題と考えております。

この現状を踏まえ、本会は主に宮城県が打ち出す農業・農村振興や食の安全、安心確保の実現に向けた畜産関連施策と連携を密にし、一体的な事業を推進していかなければならないと考えております。特に飼料価格高騰に対応するための相談窓口を昨年12月に協会の本所及び各事業所に設置し、畜産経営の一助となるべく努めているところであります。

また、畜産主産県として、より一層競争力を強化していくためには、生産性の高い畜産経営体に対する支援指導、価格安定対策、家畜の改良、家畜衛生対策等多岐にわたる事業に積極的に取り組み畜産経営の安定と発展のため、指導事業を核に関連事業を実施してまいりますので、関係機関、会員並びに関係各位更なるご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

最後に、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



〈知事年頭挨拶〉

衆知を集めて

「活力とやすらぎの
ある宮城」を築く

宮城県知事 村井嘉浩

明けましておめでとうございます。皆様には夢と希望に満ちた新年を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、JR仙台駅と東北の空の玄関口仙台空港を結ぶ仙台空港アクセス鉄道が3月に開業したほか、東北楽天ゴールデンイーグルスが4位に躍進するなど、東北・宮城の更なる飛躍を予感させる1年でした。

さて、県政を取り巻く環境は、少子高齢化の急速な進展に伴う人口減少、地方分権を巡る状況変化、市町村合併の進展、厳しさを増す県財政運営など、大きく変わってきております。昨年3月には、「宮城の将来ビジョン」を策定し、こうした状況の中で、すべての県民が希望を持って安心して生活できる地域づくりを進めていくことができるように、10年後の宮城のあるべき姿や目標を県民の皆様と共有し、その実現に向けて県が優先的・重点的に取り組むべき施策を明確にいたしました。

県民だれもが「生まれてよかった、育てよかった、住んでよかった」と思える宮城県を構築していくためには、しっかりとした経済基盤を築き、創出された富の循環によって、福祉や教育、環境、社会資本整備などへの取組を着実に進めていく必要があります。こうした考えの下、産業を振興することにより、経済基盤を確立し県経済の成長を図る「富県宮城の実現」に、県民や企業の皆様とともに、本県の総力を結集して取り組み、県民の皆様との共有の目標として掲げた「平成28年度には県内総生産額を10兆円以上にする」という目標の達成を目指してまいります。

昨年の県議会9月定例会においては、「富県宮城の実現」を加速するための「法人事業税の超過課税(みやぎ発展税)」の導入をお認めいただきました。あらためて、県民や企業の皆様の御理解と御協力に感謝を申し上げます。この発展税は、「しっかりとした経済基盤」を築くために有効に活用させていただき、宮城の将来に明るい展望が見いだせるような

効果的な施策を展開してまいりたいと考えております。また、昨年10月には、自動車の生産台数が世界で第1位・2位を争う「トヨタ自動車」の関連会社であるセントラル自動車株式会社が、平成22年をめぐりに、神奈川県にある本社・工場を大衡村の第二仙台北部中核工業団地及びその近接地に移転することを決定したという朗報が舞い込んでまいりました。これで昨年3月に立地が決定した売上高が世界第2位の半導体製造装置メーカーである東京エレクトロン株式会社に続く大型の企業誘致が実現したことになります。今後は、関連企業の本県への移転も考えられることから、これまで以上にすそ野を広げ、誘致活動に一層力を注いでまいります。そして、今年10月からは、大型観光キャンペーン「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」が開催されます。昨年のプレキャンペーンで行った県外観光客の誘客や各地でのおもてなしの催しなどの実効性を検証し、「観光王国みやぎ」にふさわしい、魅力的でより実効性の高い施策の構築や受入態勢の確立を図ってまいります。経済効果が高い観光施策の拡充に努めることは、「富県宮城の実現」を大きく進展させるものであります。デスティネーションキャンペーンや仙台空港アクセス鉄道の開業、仙台香港定期便・仙台広州定期便など新たな国際定期便の就航が本県観光の新たなほう芽となるよう、今後とも民間と協働して観光振興に取り組んでまいります。

こうした「富県宮城の実現」の取組に加えて、富県を実現していく中で、保健や医療、福祉、教育などの取組を更に推進していくほか、治安の強化などにも取り組み、県民だれもが、どの地域に住んでも安心して過ごせるよう「安心と活力に満ちた地域社会づくり」に努めてまいります。さらには、これらの取組と併せて、経済成長と環境保全が両立する社会システムの構築や宮城県沖地震など大規模災害による被害を最小限にとどめることを目指す「人と自然が調和した美しく安全な県土づくり」についても全県を挙げて取り組んでまいります。

県財政は、今後も厳しい運営を余儀なくされますが、引き続き行財政改革に取り組んでいくとともに、これまで以上に知恵を絞り、県民の皆様をはじめ、企業やNPOなどの皆様との協働や情報共有の下、衆知を集めて県政運営に取り組み、「富県共創！ 活力とやすらぎの邦(くに)づくり」にまい進してまいりますので、皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭に当たり、皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。

畜産加工調理体験教室を開催しました ＝地域畜産ふれあい体験交流推進事業＝

社団法人 宮城県畜産協会

近年、テレビやラジオで耳にするようになった「メタボリック症候群」。気になる中高年の割合も年々増加傾向にあり、食肉の脂身を嫌う家庭が多くみうけられます。このことから、本会では平成19年11月29日（金）多賀城市の（独）雇用・能力開発機構宮城センターにおいて一般消費者、関係者等総勢51名の参加のもとに「畜産加工調理体験教室」を開催しました。



調理風景

講師に宮城県栄養士会の先生方をお招きし、「お肉も工夫しだいでメタボリック改善」と題して講話をいただき、デモンストラーションを行った後に、仙台牛・宮城野豚などの食材をもとに、牛肉・豚肉料理を各2品、参加者全員でグループ交流を図りながら料理に取りかかりました。

＝料理メニュー＝

- ①豚肉のはちみつ焼き（写真右下）
- ②豚肉と野菜の酒かす煮込み（写真左上）
- ③れんこんのすいとん風（写真中央）
- ④牛肉の韓国風和え物（写真左下）
- ⑤和牛ミートローフ（写真右上）



料理写真

参加者からは、生産物の流通や販売店舗についての質問のほか「今日の試食は肉料理なのに脂っこさが無く肉を食したイメージがない」、「調理教室の継続開催」、「県内産食材への購入意欲につながった」等の感想がありました。

今後とも、生産現場の果している役割や食品の安全・安心に対する理解が得られるような事業展開しながら、県内畜産物の消費拡大につなげていきたいと考えています。（経営支援課）

優秀農林水産業者の表彰について

宮城県農林水産部畜産課

平成19年11月23日（金）に明治神宮会館において平成19年度（第46回）農林水産祭表彰式典が開催されました。

式典では、財団法人日本農林漁業振興会の会長である若林正俊農林水産大臣をはじめ各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者等約700人が参加して天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の授賞式が行われました。

本県畜産関係では、次の方々が栄えある賞を受賞されました。心からお喜び申し上げますとともに、ますますの御発展をお祈りいたします。

表彰行事名	品目	市町村	受賞者
平成18年度 宮城県総合 畜産共進会	乳用牛	栗原市	鈴木 義博
	肉用牛	美里町	みどりの和牛育種組合
	肉 豚	登米市	小野寺 武
第46回仙台牛 枝肉共進会	肉用枝肉	大郷町	佐藤 喜一

(生産振興班 渡辺 弘)

第7回全日本ブラックアンド ホワイトショウ開催される

宮城県ホルスタイン改良同志会

平成19年11月12日～13日静岡県御殿場市馬術・スポーツセンターにて、全日本ブラックアンドホワイトショウが開催されました。

宮城県からは半澤 善幸 氏、渡辺 孝一 氏が出品し、社団法人家畜改良事業団十勝種雄牛センター場長の高橋 茂 氏によって審査が行われ、丸森町 半澤善幸さん所有のブラメリア インテイグリテイ リートンが4歳優等賞1席を獲得いたしました。



(家畜改良課)

〈畜試便り〉

新ランドレース種系統造成について

宮城県畜産試験場

国内で系統造成豚として現在維持されているのが39系統、現在造成中のものが14系統あります。

維持39系統の内訳は、ランドレース種18系統、大ヨークシャー種12系統、デュロック種5系統、パークシャー種3系統、合成豚(トウキョウX)1系統となっており、年間約5千頭弱が種豚として配布されています。

当場で造成しているランドレース種も平成19年9月までに第4世代の能力検定が終了しました。改良する形質は、産肉性(一日平均増体量・背脂肪厚)や繁殖性(一腹総産子数)に加え、社会的ニーズとして安全・安心な豚肉が求められていることから、疾病(特にマイコプラズマ性肺炎)に対する抵抗力を取り入れており、薬剤依存から脱却した高生産性系統豚を目指しています。今回の検定成績は、DGが雌雄平均で846g(体重30kg~105kg間)、総産子数が11.3頭、マイコプラズマ性肺炎の病変スコア(MPSスコア:肺の面積に対する病変の面積)が3.64となっています。また、完成豚では、DGが900~950g、総産子数が12.5頭、MPSスコアが0になることを目標に改良を進めています。このうち、総産子数について、第4世代の生産から分娩頭数を増やし選抜圧を高めています。このため、第5世代の生産においては繁殖性の向上を期待しているところです。

特に、マイコプラズマ性肺炎に関しては、病変を少なくする方向への選抜を実施していますが、併せて抗病性遺伝子の探索も国研究機関等と連携しながら実施しており、平成19年度の県業績発表会でその一端を報告させていただきます。

そのほか、系統造成豚の遺伝資源保存及び維持年限の延長を目的として、豚凍結精液の実用化試験を実施しております。本年度は、凍結精液融解後に生体内局所ホルモンを添加し、人工授精した後の受胎率や胎子数を調査しました。その結果、添加した区を受胎率が向上し、特に融解後生存率の低い精液への効果が高い傾向が見られ、今後その結果をとりまとめ公表することとしています。

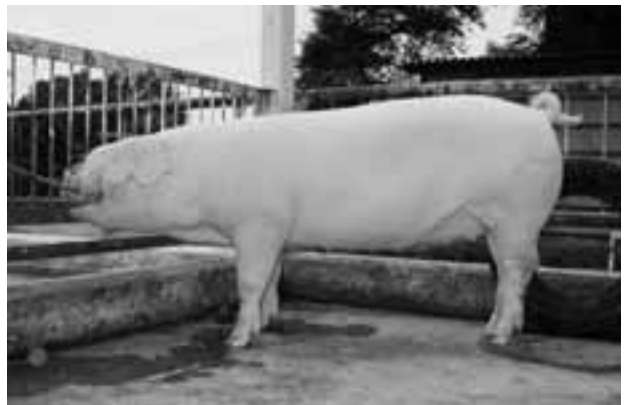
現在実施している系統造成の完成は、平成20年度を予定しており、平成21年から本格的に配布する見込みです。その間に、配布体制の構築等を実施していきますので、関係機関にはよろしくご協力をお願いいたします。

以上のように、当場では、新ランドレース種系統豚の造成を進めているところですが、近年、県内に限らずランドレース種豚の供給が不足している状況にあることから、本系統造成の途中世代豚を生産者へ配布しております。平成19年度は終了しましたが、平成20年度の配布時期と価格については、「1産取り」が5~6月に63,000円、「未經産」が10~11月に105,000円(それぞれ税込み)を予定しております。配布予定頭数は、「1産取り」が約25頭、「未經産」が約10頭を見込んでいます。配布希望がございましたら、事前に当場へご相談下さるようお願いいたします。

第4世代(H19年度)の検定成績および改良目標

	G4成績	改良目標
一日平均増体量	846.5	950
背脂肪厚	21.3	19
MPSスコア	3.64	0
総産子数	11.3 (G3)	12.5

その他考慮する形質として、AR病変スコア、外陰部スコア及び肢蹄の強健性を設定



第4世代雌(105kg検定時)

(種豚家きん部 鈴木 英作)

平成19年度肉用牛増頭意見交換会

宮城県農林水産部畜産課

1 意見交換開催の経緯

宮城県の肉用牛の飼養状況は、飼養戸数の減少が進む一方で、担い手を中心に規模拡大が進み、平成17年以降繁殖用雌牛の飼養頭数は、微増傾向で推移しています。こうした中、肉用牛生産現場では、繁殖素牛を県外導入に依存し、県内産優良素牛の保留が進んでいない現状にあります。また、「みやぎ総合家畜市場」上場牛の成績を見ても、県種雄牛の比率の低下や上場される種雄牛の数が180を超えるなど（平成18年度）種雄牛造成における課題も生じています。

こうした現状に対処するため、今後の和牛改良方針や種雄牛生産システム等について、地域毎に現場から声を結集する場を設けて、和牛生産に対する生産者の英知を結集する体制を構築しようと、平成18年度は県内3地域（大崎、栗原及び登米）において『肉用牛改良意見交換会』を開催し、和牛改良方針の議論を深めましたが、平成19年度においては、大河原、仙台及び石巻地域において肉用牛改良方針を含めた、生産振興の一助にするため、肉用牛生産に関わる多くの方々に参加いただき、新たに『肉用牛増頭意見交換会』という形で開催しました。

2 開催の概要

県内3地域における肉用牛意見交換会の概要を開催順に紹介します。

それぞれ地域における肉用牛生産については、取り組み体制等に地域的な特徴があり、参加いただいた各分野の方々から、貴重な御意見をいただきました。

(1) 大河原地域肉用牛意見交換会

- 1) 開催月日 平成19年10月22日
- 2) 開催場所 大河原町「ララさくら」
- 3) 意見交換の概要

①参加者

繁殖経営7名 肥育経営2名 JA等3名 市町村9名 県域団体3名 県関係12名

②発言内容抜粋

- 増頭しても、現金が入るまで3年かかる。年をとってからでは頭数が増やせない。（繁殖経営）
- 飼養者の高齢化が切実である。今後、子牛値段が下がると飼養農家が減るのではと懸念している（繁殖経営）
- 町営牧場の利用拡大も大切ではなかろうか。役場と農協が連携して指導を行って欲しい。
宮城の種雄を良くするも悪くするもわれわれの対応だと思うので、この点は我々も考えていかなければならない。（繁殖経営）
- 仙南の牛の銘柄を確立するため、関係機関の協力体制が必要であり、将来的に仙南の和牛改良組合が一つになればよいと思っている。（繁殖経営）
- 「茂洋」に続く種雄牛の造成望む。結果的に高く売れる子牛は、鹿児島など民間の種雄牛となっているのが実情である。もともと宮城県に牛を買いに来る人は、茂重波の血統を求めてきた。宮城としての特徴を出して欲しい。
宮城の血統を残しながら肥育農家が儲かるような子牛を造っていったらよいと思う。（繁殖後継者）
- 仙南地域は、多くの酪農家が和牛を飼養している。増頭には酪農家の対応が不可欠である。受精卵移植技術も協同で導入できればよいと思う。（繁殖女性部）
- 素牛高、配合飼料高騰により生産費が上昇している。また、県の種は枝肉重量に欠け、肥育素牛として買いたいと思う人は少ないと思う。（肥育経営）
- 後継者に有利な資金等の後継者対策が必要（肥育経営）
- 牧場利用により、分娩舎と育成舎の整備により増頭可能であり、要望に応じていきたい。（公共牧場管理従事者）

(2) 石巻地域肉用牛意見交換会

- 1) 開催月日 平成19年11月6日
- 2) 開催場所 石巻市「いしのまき農協大谷地支店」

①参加者

繁殖経営5名 肥育経営4名 JA等5名 市町村7名 県域団体3名 県関係8名

②出された主な意見

- 地域的に高齢化進んでいる。また、後継者が出てきてくれればよいと思っている。（繁殖経営）
- 枝肉重量のある品質の良い牛を造らないとやってはいけない。血統の見極めが大事だと思っている。また、繁殖の方には、胃袋（第一胃）の大きな牛を作ってもらいたい。（肥育経営）
- 今は、運用資金の手当ができるかが問題である。資金調達があまくいけば、自分好みの牛が買える。
今後、24～27ヶ月齢の肥育で回転を上げる方向でいか、宮城らしいサシのある牛でいか。宮城の良さはサシであったので、この点を残していかないといけない。（肥育経営）
- 畜舎や堆肥舎等、新規参入者の負担が重い。親がやっている分野を引き継ぐのであれば可能であるが。（繁殖経営）
- 波系の子牛は、家畜市場での繋ぎ場で見劣りする。「茂洋」のような増体のある種雄牛の改良を進めて欲しい。また、肥育農家の要望から子牛育成時に良質の乾草を給与して、ここ3年でだいぶ子牛が変わってきた。（繁殖経営）
- 家畜導入事業を利用する際の契約事項がかなり厳しい条件になり、利用しづらくなった。（繁殖経営）
- 導入に係る資金調達の問題がある。また、若い人たちを対象とした研修会の開催とか、意見交換を与えてやる必要がある。（繁殖経営）

- 子牛価格及び配合飼料価格の高騰により、今飼っている素牛でどれぐらい利益がでるか分からない。農村部でも、近隣との環境問題に気を使う時代になってきた。(肥育経営)
- 稲WCS等をやっているが、転作に関係する情報提供を望む。(肥育経営)
- 宮城県の種雄牛の場合、増体が悪いことがいつまで経っても、ネックになっている。農家側も増体系を付けたいとの要望多いのが現状である。(家畜人工授精師)

(3) 仙台・あさひな地域肉用牛意見交換会

- 1) 開催月日 平成19年11月8日
- 2) 開催場所 大郷町「あさひな農協営農センター」

①参加者

繁殖経営8名 JA等3名 市町村7名 県域団体2名 県関係8名

②出された主な意見

- 飼養戸数の減少要因は、高齢化が一番である。これからは、地域の仲間の後押しがあれば、増頭につながると思っている。(繁殖経営)
- 小規模頭数が多く、家族の協力と畜産仲間での輪ができることが必要。いろいろ手伝ってくれる体制整備が重要である。(繁殖経営)
- 県種雄牛は、肉質がよいが、増体が悪いことで比較的子牛価格が低い。改良組合として、3年前より保留対策に取り組み始めた。(繁殖経営)
- 酪農から和牛へ経営転換中である。自給飼料も購入している地域なので、資金をどうしていくかが問題点である。(繁殖経営)
- 県有牛として人気がありワクワクするような種雄牛を作りたい。将来息子が就農したら、経営規模を拡大したい。(繁殖経営)
- 哺乳ロボットを導入し、規模拡大を図っている途中である。(繁殖後継者)
- 繁殖技術向上につながる研修会の回数を増やしていきたい。(繁殖女性部)
- 増頭に関しては、簡易牛舎の設置について情報提供が必要である。(繁殖経営)
- 大規模飼養をしていると、繁殖管理の問題と堆肥処理の問題があり、苦労している。(繁殖後継者)
- ここ4年間九州導入を進めてきたが、保留を進めていこうと思っている。県の種雄牛の使い方には難しいところがある。(繁殖経営)

3 今後の方向

今夏の意見交換会で得られた貴重な意見につきましては、「宮城県肉用牛改良委員会」において報告するとともに、今後の宮城県肉用牛改良に反映させていきたいと思っております。

今後も県内の肉用牛の改良・増頭を進めるため、関係機関が連携した振興策を展開していく予定ですので、生産者の皆様のご理解とご協力をお願いします。



大河原地域肉用牛増頭意見交換会

(生産振興班 大場 実)

配合飼料価格の高騰等に関する経営相談窓口を開設

社団法人 宮城県畜産協会

本会では、配合飼料価格の高騰等に伴い、平成19年12月18日をもって、下記により経営相談窓口を開設しましたのでお知らせいたします。

なお、各家畜保健衛生所及び畜産振興部においても開設しております。

◆本所(経営支援課)	仙台市宮城野区安養寺3丁目11番24号	TEL 022-298-8473
◆仙南事業所	大河原町金ヶ瀬字青木1-1	TEL 0224-52-2523
◆中央事業所	美里町北浦字生地22-1	TEL 0229-34-3304
◆仙北事業所	登米市迫町北方字泥木沢4-2	TEL 0220-21-1552

繁殖和牛子牛・胎児の事故発生状況と対応策について —特に分娩時の事故と子牛下痢症—

宮城県農業共済組合連合会

用語説明：胎児とは共済掛金期間中にその母牛に対する授精または受精卵移植の後240日に達する可能性のあるものの引受上の共済目的の種類である。

はじめに

近年、市場購買者のニーズによる種雄牛の大型化に伴う牛の分娩時の事故（その他の胎児異常、子牛虚弱症候群、心不全等）が増加する傾向にあります。また、一方では出生後、下痢（腸炎、胃腸炎）の事故多発により農家に対し甚大なる経済損失をもたらしています。

今回は分娩時の事故と下痢症について、県内の発生状況と対応策について触れてみたいと思います。

1. 子牛・胎児の引受状況と事故発生状況（平成18年度実績）について

1) 引受実績 他肉＝繁殖和牛 表1

共済目的	頭数 (頭)	共済金額 (円) (事故に対する最高補償金額)
他肉成牛	37,706	8,387,378,555
他肉子牛	5,776	675,224,832
他肉胎児	30,506	2,660,415,554

2) 病傷事故実績 表2

共済目的	件数 (件)	支払共済金 (円)
他肉成牛	16,557	152,279,157
他肉子牛	2,944	35,778,532
他肉胎児	13,657	188,955,371

病傷事故病名別件数

他肉牛（成牛・子牛）件数 (件)		他肉牛（胎児）件数 (件)	
卵巣静止	3,583	腸炎	9,049
黄体遺残	2,495	気管支炎	1,042
腸炎	2,411	胃腸炎	912
鈍性発情	1,495	肺炎	721
卵胞嚢腫	1,459	子牛虚弱症候群	491
気管支炎	1,319	その他の胎児異常	354
	19,521		13,657

3) 死産事故実績 表3

共済目的	頭数 (頭)	支払共済金 (円)
他肉成牛	358	75,993,001
他肉子牛	96	10,941,304
他肉胎児	1,015	88,042,787

死産事故病名別頭数

他肉牛（成牛・子牛）頭数 (頭)		他肉牛（胎児）頭数 (頭)	
心不全	68	その他の胎児異常	362
脂肪壊死症	45	腸炎	179
肺炎	40	子牛虚弱症候群	123
腰痠	36	心不全	96
腸炎	28	肺炎	66
迷走神経性消化不良	22	その他の新生子疾患	48
	454		1,015

以上の事故実績から病傷事故（表2）では引受頭数（表1）に対し、子牛では50%、胎児では44.8%の病傷事故の発生率となっており、中でも胎児の下痢症（子牛を除く）では全件数に対し72.9%を占める。また、死産事故（表3）を見ますと子牛では引受頭数の1.7%、胎児では3.3%といかに胎児における死亡事故が多いのかご理解いただければと思います。特に、胎児の分娩時に係る死産事故では57.2%、下痢による死産事故では17.6%と合わせれば全体の74.8%占める結果となり、今後の子牛生産の上で深刻な問題となっています。

2. 事故発生の背景

肥育素牛購買者ニーズ等により種雄牛の大型化に伴う牛の分娩時の事故が多発しています。その背景には種雄牛と出生時体重の関係が大きく影響しています。表4は種雄牛と出生時体重(AV、kg)の関係です。特に平茂勝や安秀165などは過大児に成りやすく分娩予定日を押し傾向にあります。

また、母牛との相性によっては、40kgから45kg前後の出生時体重の報告もあり、このことも難産の原因となっています。

表4

種雄牛	♂ (kg)	♀ (kg)
糸 福	32.6	28.7
北 景 茂	27.3	25.2
北 仁	28.8	25.8
平 茂 勝	35.0	31.2
福 栄	28.9	25.6
松 福 美	23.7	25.3
美 津 福	30.7	27.6
安 秀 165	32.2	29.1
安 平 照	31.7	25.3

牛の分娩時の事故の背景には分娩に対する農家意識と観察力の問題があります。その中で一番多い答えは「分娩予定日を忘れていた」「夜中に分娩してしまった」「忙しくて分娩に立ち会えなかった」そして、「まさか今日分娩するとは思わなかった」などなどである。

兎にも角にも、儲かるための経営の上では観察力の一言に尽きると思います。

それでは下痢症多発の背景とは…その背景には、初乳給与の不適切、牛舎環境の問題、畜舎等の消毒の問題、そして、母牛に問題があるなど多岐にわたって考えられる。その中でも、わりと知られていないのが分娩と下痢の因果関係です。難産などにより弱く生まれた子牛は免疫能も低くストレスに対し非常に弱いのです。このようなことから、細菌、ウイルス、寄生虫などによる感染性にも弱く容易に下痢を発生してしまうのです。

それから最も大事なことは、母乳のチェックです。十分飲んでいと思ったら乳量が足りず発育上、必要な量を飲んでいなかった。このようなことによく遭遇します。

3. 今後の対応策

分娩時の事故を防ぐには、まずは家族全員に分娩予定日を周知することから始めるべきでしょう。そして、大型の種雄牛を人工授精した時や、分娩予定日より長く在胎している時など胎児が大きく成長している事が予想される場合は、獣医師に検診を依頼するとともに、お産には必ず立ち会って下さい。そして、分娩の予定日の約1週間前から乳房、外陰部、尾根部などについて特に注意をして観察することです。

分娩時は、原則として第一破水が認められてから、最低3時間は人為的な介助は避けてください。産道を十分開口させるためにも…

夜に多い分娩事故防止対策として、人為的に昼間に分娩させる方法があります。分娩予定日のおよそ10日～2週間前から飼料給与を朝はやらずに、夕方から夜間(16時以降)の1日1回の給与に切り替え、翌朝残飼があれば取り除きます。このことにより60～70%の確立で昼間に分娩を集中させることができます(特に初産牛で成功率が高い)。成功率を高めるポイントとしては、朝等に自分以外の同居牛が食べている姿を見せない事です。分娩房等へ移動してゆっくり安心できる環境を作ってあげて下さい。そして何よりも、母牛の体型にあった種雄牛の交配をすることです。

では、子牛下痢の予防法はと申しますと、どんな病気の予防法にも共通していることですが清潔で乾燥した敷料と良好な換気それに畜舎消毒など環境の改善が大切です。そして、母牛のワクチン接種の励行。出生後の適切な初乳の給与、給与については起立して哺乳欲を示した生後6時間以内に出来るだけ早く給与することです。それから、母牛および子牛に対して駆虫をすることも大切です。そして、早期発見を念頭に日々の観察を行うことが最も大事なことです。下痢の発生する背景には様々な要因が絡んでいます。それを解明できないと下痢の根本的な減少には到達できません。

今後、事故がなく1頭でも多く上場されることを御祈念し、筆を置きたいと思います。

(家畜部 武蔵 昌文)

家畜診療研修所の新築について

宮城県農業共済組合連合会

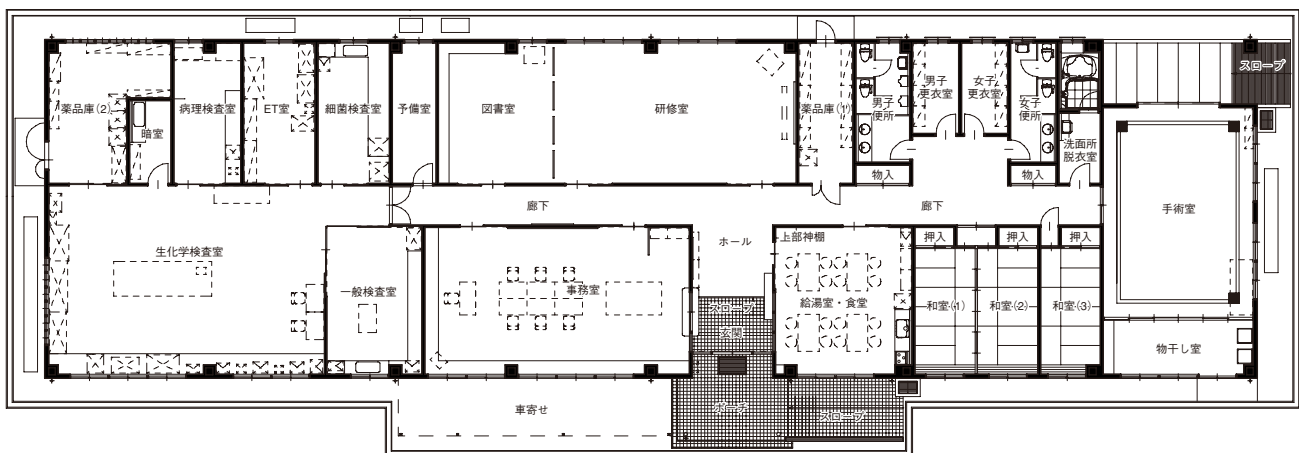
この度、NOSA I宮城では昭和49年に建築をした「家畜診療研修所」にかわり、新たに「家畜診療研修所」を同敷地内に建築した。

(旧) 家畜診療研修所は建設後32年が経過し、昭和53年には宮城沖地震を経験し、その後、数度の震度4以上の地震に見舞われ、建物に亀裂、劣化現象等が見られ、老朽化が進行している状況などもあり、平成18年8月「家畜診療研修所建設検討委員会」を設立し検討を重ね、19年5月16日起工式に至った。新たに建築した家畜診療研修所はほぼ旧家畜診療研修所の広さに匹敵する延べ床面積731.92㎡(221.40坪)の鉄骨平屋造である。建物内部は事務室、生化学室、一般検査室、細菌検査室、ET室、暗室、薬品室、図書室、研修室、薬品庫、宿泊室、食堂、手術室等を備え、特に玄関、事務室、検査室、薬品庫に電子錠を設置し、セキュリティに配慮をしている。

新しい家畜診療研修所の特徴は、今までの検査室(ワンフロアー)において稼動していた検査をそれぞれの検査の性格上を考慮し、個々の検査室に細分化にしたところにあり、適所に機器を集約し、業務の効率化を図っている。

さらに、検査室用薬品室と診療用薬品庫を分けるとともにセキュリティを重視した造りとなっている。本会家畜診療研修所は農水省指定となっていることから図書室および研修室の充実化を図るとともに、IHによる自炊が出来る食堂や宿泊室等も完備している。

落成式は12月18日に執り行われ、新しい研修所の中で既に業務が営まれている。



平面図

(家畜部 武蔵 昌文)

〈実践大学生の抱負〉

私の将来について

宮城県農業実践大学校畜産学部
2年 赤間 正也

現在、私の家(大郷町)では繁殖牛約100頭と運送業との複合経営をしています。畜産部門では、平成15年より有限会社みなとファームとして法人化しており、従業員数は3名で従事しています。この農業実践大学校を卒業した後は畜産部門の有限会社みなと

ファームに従業員として就農し、畜産経営に関しての知識を深めていきたいと考えています。

法人化する前は、私の祖父が小規模での畜産業を営んでいましたが、一時は体調不良により畜産経営の廃業を検討するまでに至ったそうです。しかし、私の父は畜産の現状と将来性に期待し、畜産経営の大幅な規模拡大を図ってきました。そんな中、畜産業界を震撼させた、「牛海綿状脳症(BSE)」や「口蹄疫」が発生するという価格の下落と食の安全性を脅かす畜産情勢にも関わらず、積極的な導入を継続してきました。その結果、今のような規模での経営に成功しました。ここ最近では、規模拡大で早期離乳を考えての人工哺乳ロボットを導入するなど新しい技術を使つての省力化にも積極的に取り組んでいます。そんな父の思い切った決断力と経営のノウハウ、さらには逆境をはね返すような意志の強さを私は尊敬し、それを学ぶために父のもとで働きたいと考えました。

学校で取得できる牛削蹄師の資格を活用して将来、私の家の牛を削蹄できるように経験を積みたいとも考えています。さらには、地域の基幹農業者の高齢化と水田耕作放棄地が増加していることから、今後は水田作業を受託していくことや、水田耕作放棄地を利用しての簡易放牧を実施するなどして、私の生まれ育った地域に少しでも貢献したいと思っています。

気づけば卒業まで約3カ月となり、あとは卒業論文のまとめと発表を残すだけとなりました。この農業実践大学校の仲間と学んできた時間はかけがえないものです。卒業後も彼等と情報を交換しながら切磋琢磨してともに頑張っていきたいと思っています。

〈衛生便り〉

高病原性鳥インフルエンザ対策の
再度確認を

仙台家畜保健衛生所

県内にも多くの渡り鳥が飛来し、本格的な冬季を向かえましたが、今年は例年より2週間早く初雪が降り、人のインフルエンザの流行も早いようです。冬になると、やはり高病原性鳥インフルエンザの国内での発生が心配になります。わが国では、79年ぶりとなる発生(H5N1亜型)が平成16年1月から3月にかけて山口県と大分県、京都府でありました。その後、平成17年6月から翌年の1月にかけて茨城県と埼玉県でH5N2亜型の発生があり、さらに平成19年1月から2月には宮崎県と岡山県でH5N1亜型の発生がありました。発生のたび、消石灰の散布で雪が降った様に辺り一面真っ白になった発生農場とマスクにゴーグル、防護服を着用した大勢の作業従事者、一部では自衛隊が作業従事する状況もマスコミにより報道され、その関心の高さが伺えます。各発生事例は感染経路究明チームにより報告書が作成されています。平成19年の宮崎県、岡山県での発生については、分離されたウイルスが近隣の韓国やモンゴル、中国で分離されたウイルスと極めて近縁であり、韓国の発生地域周辺で野生の水禽類から分離または抗体を保有していたことや、宮崎県での1例目発生直前に70kmほど離れた熊本県内で衰弱したクマタカ(留鳥)から本ウイルスと極めて近縁なウイルスが分離されています。国内へのウイルスの侵入は、国内外で野鳥からウイルスの分離事例があることから渡り鳥が推定されています。また、農場への侵入については、人や飼料、物資による人為的なものは否定的で野鳥や野生動物による持ち込みが推察されています。そして報告書には農場における野鳥や野生動物の侵入防止対策について十分でなかったことも指摘されており、今後の発生予防対策として重要です。

平成19年11月26日には、韓国で弱毒ではありますがH7H8亜型の発生が確認されています。国内での高病原性鳥インフルエンザ(H5N1亜型)発生は、2度とも冬季に起こっていますので、鶏飼養者の方々は、再度、鶏舎への野鳥や野生動物等の侵入防止対策の徹底をお願いします。また、異常鶏の早期発見に努めるとともに家畜保健衛生所(畜産振興部)または獣医師への早期通報をお願いします。

(防疫班 高橋 幸治)

賀 春

宮城県農業協同組合中央会 会長
 全国農業協同組合連合会宮城県本部 理事長
 宮城県農業共済組合連合会 理事長
 みやぎの酪農農業協同組合代表 理事
 宮城県農業公社 理事
 宮城県草地協会 会長
 宮城県獣医師協会 会長
 宮城県酪農協会 会長
 宮城県ホルスタイン協会 会長
 全国和牛登録協会宮城県支部 会長
 宮城県牛乳協会 会長
 宮城県家畜商協同組合 理事
 宮城県養鶏協同組合 理事
 宮城県ホルスタイン改良同志会 会長
 宮城県家畜人工授精師協会 会長
 宮城県牛乳普及協会 会長
 宮城県食肉消費対策協議会 会長
 宮城県畜産協会 会長

木松 村 春 雄
 浅野 井 幸
 三千 浦 衛
 風太 葉 夫
 田三 間 康
 佐藤 藤 静
 小藤 藤 孝
 梅澤 正 夫
 三戸 盛 志
 村上 栄 盛
 半澤 善 寛
 大江 義 幸
 三浦 鉄 之
 佐藤 節 夫
 木村 春 雄

食肉と健康を考えるシンポジウム2008

「生きる力」向上生活 =食肉で心と体をいきいきと=

身近な食材のお肉ですが、私たちがまだ知らないチカラを秘めています。忙しい毎日のストレスの緩和、お子様の成長など、ゲストの西村知美さんやパネリストの先生方とともに体だけでなく心まで元気にする、お肉の秘密に迫ります。

特別ゲスト

西村 知美 (女優・タレント)

〈第一部〉

ゲストトークショー

“いいこと探し”の生きかた

参加
無料

先着
500名様を、
ご招待致します

〈第二部〉

パネルディスカッション

家族の健康づくり

～食肉の事を知って上手に食べよう～

[パネリスト] 浜松医科大学名誉教授

東京大学大学院教授

茨城キリスト大学教授・東京大学先端技術センター客員教授

管理栄養士・健康運動指導士・スポーツ科学修士

高田 明和 先生

清水 誠 先生

板倉 弘重 先生

金子ひろみ 先生

日 時：平成20年3月1日 (土) 午後1時30分～午後4時35分 (開場12:30)

場 所：広瀬文化センター (JR愛子駅より徒歩7分)

主 催：財団法人 日本食肉消費総合センター

後 援：農林水産省 生産局/独立行政法人農畜産業振興機構

ご来場の中の方から抽選で25名様に、国産高級牛肉をプレゼント!

お申し込みは、下記の内容を記載し、HP・FAXまたはハガキにてお願いいたします。

お 名 前	年 齢	性 別	ご連絡先住所・電話番号
	歳	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	〒 TEL

URL http://www.jmi.or.jp

FAX 03-5428-0828

ハガキ 〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町2-1 渋谷ホームズ823シンポジウム事務局

お問い合わせ 0120-54-1129 (受付時間：平日10時～18時)